

第10回実験動物科学シンポジウム

創薬研究のためのヒト化動物最前線

日時：2022年11月18日（金）13：00～18：20（12：00受付開始）

会場：鳥取大学医学部記念講堂

（現地開催の予定、感染状況によりオンラインに変更の可能性もあり）

会場アクセス：<https://www.tottori-u.ac.jp/1798.htm>

参加費無料

【開会挨拶】13:00～13:10

鳥取大学 医学部長 中村廣繁

鳥取大学 染色体工学研究センター長 久郷裕之

日本実験動物学会理事長 三好一郎

【ヒト化動物オーバービュー】13:10～13:20

鳥取大学 香月康宏

<第一部：13:20～15:00 ヒト化動物作製基盤となるゲノム操作技術>

座長：鳥取大学 大林徹也

① ゲノム編集マウスと精子研究への応用 大阪大学 伊川正人

② ラットにおける遺伝子改変技術とヒト化動物の現状と展望 東京大学 真下知士

③ ゲノム編集による器官形成不全ブタの作出 明治大学 渡邊 将人

④ マウス/ヒト人工染色体によるヒト化動物作製と創薬研究への応用 鳥取大学 香月康宏

【休憩】15:00～15:10

<第二部：15:10～16:25 異種胚キメラ作製技術>

座長：大阪大学 伊川正人

① 逆胚盤胞補完法による臓器欠損モデルへのアプローチと異種間キメラを用いた肺の作製
奈良先端大学 磯谷綾子

② ラットにおける生殖細胞作製 -胚発生過程の利用とその試験管内再構築-
東京大学医科学研究所 小林俊寛

③ 動物発生環境を利用した臓器創出における課題 東京薬科大学 山口智之

【休憩】16:25～16:35

<第三部：16:35～18:15 ヒト化動物>

座長：実験動物中央研究所 末水洋志、鳥取大学 久郷裕之

① ヒト化動物を用いた薬物代謝・動態研究への応用 明治薬科大学 小林カオル

② 完全ヒト抗体産生動物の解析と抗体医薬品開発への応用 鳥取大学 里深博幸

③ ヒト化肝臓マウスによる薬物代謝研究への応用 実験動物中央研究所 末水洋志

④ ヒト化マウス技術を用いた抗腫瘍免疫反応の誘導 実験動物中央研究所 高橋武司

【閉会挨拶】18:15～18:20

日本実験動物学会 学術集会委員会委員長 伊川正人

共催：鳥取大学大学院講義、鳥取大学染色体工学研究センター、鳥取バイオサイエンス振興会

締切
10月28日（金）
11月10日（木）
まで延長しました

事前登録：下記サイトからご登録ください

https://docs.google.com/forms/d/1snielGzGttrHfBu7_aXP-8xpDX8v-pZFLzjAV40x10/edit?ts=62d0ba9c

